

## 4) 諮問・答申

読企第 132 号  
令和 3 年 6 月 4 日

読谷村まち・ひと・しごと創生審議会 会長 殿

読谷村長 石嶺 傳實 

「第 2 期読谷村ゆたさむら推進計画」の諮問について

読谷村まち・ひと・しごと創生審議会規則第 2 条の規定に基づき、「第 2 期読谷村ゆたさむら推進計画」の策定について、貴審議会の意見を求めます。

令和 3 年 11 月 22 日

読谷村長 石嶺 傳實 殿

読谷村まち・ひと・しごと創生審議会  
会長 仲宗根 朝治

「第 2 期読谷村ゆたさむら推進計画」について（答申）

令和 3 年 6 月 4 日付け、読企第 132 号にて、貴職から諮問を受けた「第 2 期読谷村ゆたさむら推進計画」について、本審議会で慎重な審議を重ねた結果を別紙のとおり答申いたします。

全国的に人口減少に対応した地域づくりが進められている中、本村においても将来的な人口減少を見据えたむらづくりが求められます。これからのむらづくりにおいて、本計画の重要性は高く、すべての村民が安心して暮らし続けることができるむらづくりを目指し審議いたしました。

計画を策定したこれからがスタートであります。本計画の実現に向け、多様なステークホルダーと「想い合ち」のもと、「いちゆいゆんたんざ」の気概を持って取り組むことを望みます。

したがいまして、審議内容を真摯に受け止められ、計画の実施に活かしていただき、村民の生活、福祉の向上ならびに豊かな読谷村を築き上げられますようお願いいたします。

# 参考1

## (1) 第1回審議会での主な検討内容

項目	内容
①人口ビジョンについて	・ 読谷村の適正人口を検討するのか（伊波委員）
	・ 合計特殊出生率が高めに設定されていないか（幸地委員）
	・ 合計特殊出生率は沖縄県平均を読谷村は下回っている。原因の分析等はやっているのか（宮國委員）
②関係人口について	・ 海外からの移住者をどのようにとらえるのか（伊波委員）
	・ どのような人が増えていくことを想定しているのか（澤田委員）
	・ 住む場所の確保が重要（澤田委員）
③量から質について	・ 量ではなく質を追いかける計画に読谷村らしさがある。「質」が行政的な成果指標に馴染むのか（木下委員）
④Society5.0について	・ 行政施策の中で Society5.0 は議論されているのか（木下委員）
⑤情報共有と情報発信について	・ 報告書で終わると関係者しか認識しない。一枚の紙でデザインとしてまとめた方がいい（伊波委員）
	・ よほど興味がある人でないとアクセスしてこない。策定経過も含め、情報発信する必要がある（金子委員）
	・ 地域に寄り添う EBPM を読谷村から発信していくことも検討が必要（幸地委員）

